

田幸まちづくりビジョン (増訂版)

～安全・安心・笑顔の田幸～



2023(令和5)年 3 月改訂

2025(令和7)年 3 月増訂

田幸地区町内会連合会



三次市地図
(三次市の中の田幸の位置)



悠久の森

まちづくりビジョン増訂版の発行にあたって

「田幸まちづくりビジョン」(改訂版)は、2023年3月に再策定され、2032年度までの向こう10年間の田幸地区町内会連合会の活動指針として誕生しました。

おかげをもちまして、これを機に、組織も活性化し、新たなイベントが生まれたり、「田幸農業文化祭」が「田幸まるごと農まつり」と改名されるなど「新しい風」が吹きはじめ、さらには若者を巻き込んだ会議やワークショップ、イベントも芽生え始めました。

加えて、まちづくりビジョン改訂作業をすすめていくうちに、農家の担い手不足、耕作放棄地の増加、農地の荒廃、多発する鳥獣被害等々の農業をとりまく多くの課題が田幸地区に重くのしかかっていることがはっきりしました。

そして、令和5年度からこの「新ビジョン」による新しいまちづくりと呼応するかのように「農とつながるまちづくり」をすすめる農村RMO事業もスタートすることとなりました。

通常、「まちづくりビジョン」の見直し等の改訂・増補作業は策定後5年目以降となりますが、この農村RMO事業導入によって、町内会連合会組織を一部改変し、まちづくりの活性化にもつながっていることから、この際、新たな組織図や農村RMO事業によって得られた成果などを盛り込んだ資料を追加掲載した「田幸まちづくりビジョン増訂版」として発行させていただくこととなりました。

この小冊子が、農村RMO事業の将来ビジョンとして、また「農とつながる持続可能なまちづくり」の道標となれば幸いに存じます。

2025(令和7)年3月(「連合会」20周年の年に)
田幸地区町内会連合会

01 まちづくりビジョン改定版の発行にあたって

田幸地区町内会連合会は、2007(平成19)年4月に、今後の田幸のまちづくりを推進していくための指標として、5年先、10年先の将来を見すえた「田幸まちづくりビジョン」を策定しました。

そして、策定から時は流れ、人口減少、少子高齢化にも拍車がかかる中で、地域をとりまく環境も大きく変わっていきました。

平成25年には田幸地区自主防災会が結成され、平成29年には念願の健康増進施設「いきいきランド田幸」が完成するなど、地域力の向上につながる組織の誕生や、地域の拠点となる施設が誕生しました。

加えて、子育て環境づくり、住民自治のあり方、地域交通や空き家の問題などの課題も年々浮上してきました。

このようなことから、田幸まちづくりビジョンを社会環境の変化や住民の新たなニーズを踏まえたものとして、田幸地区の将来像をみんなで見すえ、地域の活性化のために、これを全面的に見直し、作り直すことにしました。「改訂版」はこうして誕生しました。

02 まちづくりビジョンの計画期間

2023(令和5)年度から、2032(令和14)年度までの10年間とします。

03 まちづくりビジョンの策定過程

「田幸まちづくりビジョン」は、2007(平成19)年に初めて策定され、10年後に見直し改訂される計画でしたが、この間「理論よりも年々の実践が大切」ということで、見送られていました。

「令和」の時代となり、令和2年度の「連合会総会」において、まちづくりビジョンの重要性が再確認され、喫緊の課題として、「時代に即した見直し・改訂」の必要性が確認され、承認を受けました。

これを受けて、連合会長の諮問(要請)を受けた11人の「策定検討委員会」(課題検討委員会)のメンバーが選出され、令和4年2月末日までに度重なる議論が行われました。そして、令和4年3月に個別の事業の

見直しや、「田幸地区アンケート」の活用、三次市が委託した一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所の分析結果の反映などを盛り込んだ「答申書」が完成し、連合会長に提出されたのです。

そして、令和4年度に入り、新たに町内会連合会三役と常任理事12人で構成された「改訂版策定委員会」が5月23日に発足。

毎月1回、夜に開催する「策定委員会」でこの改訂版が完成しました。

04 まちづくりビジョンの理念 (私たちがめざすもの)

「田幸地区住民の、田幸住民による、田幸住民のためのまちづくり」を基本にして、持続性のある、「安全・安心・笑顔の田幸」をみんなが実感できるまちづくりをめざします。

田幸町章旗



この町章は、1988(昭和63)年に田幸公民館が募集して、多くの候補作の中から選考され制定したものです。原作者は、下井田常会の山口末夫さん(故人)です。

輪郭になっている六角形は田幸地区の6つの町(糸井・大田幸・木乗・小田幸・志幸・塩町)を表し、その内には連帯を示す輪と田幸の『田』を描き、輪の底部には県内最大級を誇るホタテ貝式古墳「糸井大塚」をイメージしています。

『田』の文字の内には基盤整備のできた圃場に豊かに実る稲穂の黄金色、輪は地域を流れる美波羅川の清流の青が配色され、とても色彩豊かです。

05 5つの基本目標



06 まちづくりの課題と施策

I 命を守る自主防災会活動のまち田幸

◆ ともに支えあい協力し、持続する自主防災活動の推進

① 田幸地区自主防災会(平成 25 年度発足)の年度ごとの「活動計画」に沿った、自主防災活動を推進します。

- 自主防災会と地域を結ぶ「緊急連絡網」の年度更新と活用
- 本部及び避難所の防災備品の整備と食糧等の備蓄品の効率的な活用と買い足しを行う(ローリングストック法の徹底と継続)
- 防災研修会の実施
- 田幸地区住民の防災・減災意識の向上
- 防災士の養成・育成援助
- 「防災井戸」の啓発と地道な増設の呼びかけ及び周知とマップ作り



② 今後、検討されるべきもの

- 三次市行政(三次市災害対策本部及び危機管理課)との連携強化
- 「田幸地区防災計画」の策定(組織の方針を確認)
- 防災訓練の実施(マイタイムラインに沿った避難行動、避難所開設訓練、防災用品の理解と活用の実践的訓練)
- 東部地区(塩町中学校区) 防災運動会の実施



Ⅱ 安全・安心で住み良いまち田幸

◆ 安全・安心で暮らせるしくみ（環境づくり）を推進

① 子ども、高齢者に対する安全・安心な環境づくり

- 子ども、高齢者の見守り活動、声かけ運動の実施
- 子どもたちの安全・安心な居場所づくり
（放課後子ども教室の運営、保育所保護者会・小中学校 P T A・青陵高校 P T A 等と連携した講演会の実施や行政への要望活動など）
- 次世代を育くめる子育て環境の整備



② 「青少年育成・生活安全部会」の事業を軸とした安全・安心のまちづくり（青少年田幸町民会議の事業も含む）

- 青色防犯パトロール活動の実施
- カーブミラー一斉清掃の実施（田幸地区内全域）
- 保育所・小学校・中学校・高等学校との安全・安心ネットワークづくり



③ きれいなまち、自然環境保全活動

- 草刈り・環境整備事業
- 農用地保全のしくみづくり
- 道路美化清掃（花いっぱい運動もあわせて行う）
- 自然環境の保全（ゴミのポイ捨て、不法投棄を許さない取組み）
- ほたる祭りの開催（地元実行委員会との連携）
- 「森づくり事業」等の新規事業導入の検討
- 「森林整備事業」の活用



Ⅲ 交流とふれあいのまち田幸

◆ コミュニティ活動の推進

① 魅力ある地域イベントとコミュニティ活性化イベントの開催

- 「農業文化祭」、「ポプラマラソン」の継続開催
- 若者に目を向けたイベントの企画とイベントの実施
- 田幸町民運動会の復活開催

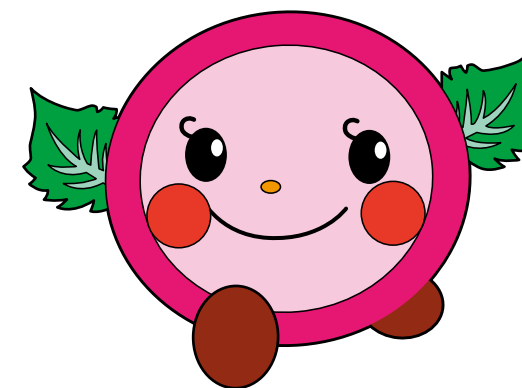


② 住民の協働によるまちづくり体制

- 町章とイメージキャラクター「田幸まるごとちゃん」の活用
- 生きがいと安らぎを求め、多くの場所での「サロン」開催
（三次市健康推進課、三次市社会福祉協議会との連携）
- 東部地区自治連合会連絡協議会としての事業推進
（田幸・神杉・和田・川西の4コミセンによる合同事業）

③ ボランティア団体等と連携したまちづくりの推進

田幸まるごとちゃん



※このイメージキャラクターは、2006 年度（第 21 回田幸農業文化祭）において 3 点の候補作の中から選んでいただき、決定したものです。「田幸まるごとちゃん」は、愛らしく温かみを感じるイメージで制作されたものです。

Ⅳ 健康で心豊か・感性豊かな文化の薫るまち田幸

◆ 教育・文化・スポーツ・健康寿命を延ばすための健康づくりの推進

① いきいきランド田幸を活用した健康増進活動とスポーツ振興

- いきいきカフェ・サロン活動など幅広い年齢層が気軽に使用できる施設環境整備
- 三次市の健康づくり拠点施設としての機能の充実（トレーニングマシンを使った巡回指導教室など）
- 身近な健康増進施設としての機能充実をはかる（健康器具とトレーニング機器の整備）
- リバーフロントの絶好のロケーションを活用したイベントの実施＜イルミネーション、「^{ふもと}禁ぐらしマーケット」、「夕涼み会」（夏まつり）等のイベント会場として＞
- グラウンドゴルフ場の整備と活用と普及活動
- 田幸GG（グラウンドゴルフ）同好会との連携
- 田幸健康増進施設管理運営委員会による安全・安心な施設管理



② 生涯学習・文化活動の推進

- 各種講座、各種講演会やセミナーの開催
- 歴史・伝統文化の継承と活用
- 各種文化活動の支援
- 「広島県立歴史民俗資料館」（風土記の丘）との事業連携
- 体育・生涯スポーツの振興



Ⅴ 住んで良かった、住んでみたい、持続するまち田幸

◆ 福祉の充実、定住対策と楽しくユニークな行事の推進

① 福祉の充実（社会福祉・地域福祉）

- 社会福祉部会を中心とした各種福祉事業の充実（敬老会、ひな弁当、ひとり暮らし高齢者の見守り活動など）
- 認知症に対する正しい理解のための啓発活動
- 地域ケア会議を立ち上げ、市行政と連動した支援活動の推進（高齢者支援の充実とそれを支える地域基盤の整備）
- 三次市行政と連動した田幸に適した地域交通サービス事業の実施（高齢者等に優しい地域交通システムの研究と確立）

② 空き家対策と定住対策（人と地域をつなぎ、結ぶ支援活動）

- 集落支援員配置による空き家調査活動と定住促進活動
- 定住者・移住者へのアンケートの実施と「集い」の開催
- 持続する農業のための後継者・担い手の発掘

③ 住んでみたいまち「田幸」の創造

- 若者の活動支援と住民自治組織の活性化
- 「田幸つながりの人」を増やす活動
- 豊富な社会資源と地域資源の活用



田幸地区の概要 (プロフィール)

田幸地区は、人口約 1,300 人（令和 4 年 12 月末現在）で、三次市の東部に位置し、東は三良坂町、西は神杉地区、南は川西地区に隣接し、中央の平坦地に美波羅川、北沿いには馬洗川が流れています。

地勢としては、高地で糸井町の大仙山が 401m、低地では塩町の美波羅橋下流の地点で 164m でその中に位置しています。面積は、18.63km²（東西 5,370m、南北 4,860m）です。

「大田幸」^{おおだこう}、「小田幸」^{こだこう}、「糸井」^{いと井}、「志幸」^{しこう}、「木乗」^{きのり}、「塩町」^{しおまち} の 6 町からなり、1956（昭和 31）年に設立した田幸公民館による公民館活動がスタートし、2005（平成 17）年からは公民館組織を母体とする田幸地区町内会連合会に再編成され、停滞することなく地域づくり・人づくりの活動が継続し、今日に至っています。施設の名称も、「公民館」から「コミュニティセンター」に改められました。

美波羅川と馬洗川、井田川筋を中心とした平坦で肥沃な農耕に適した地域で、自然が豊かで歴史・文化の豊富な地域です。

産業は、第一次産業を中心とし、農業と畜産業が盛んな地域です。中でも、「野菜類」、「豆類」、ぶどう・なし・桃の「果実」の生産が盛んです。

田幸の歴史は古く、「塩町式土器」で知られる弥生時代中期の塩町遺跡（現三次青陵高等学校の敷地全体）を筆頭に、県内最大級の「糸井大塚古墳」などの古墳やたくさんの「遺跡」が点在しています。

田幸地区町内会連合会内の「まち」を紹介します

区	田幸地区の区域名
1 区	糸井
2 区	かみだに 上谷・上定・本郷・五反田
3 区	のぶさだ 信貞
4 区	はたけばら 畑原・上ノ段・矢谷・よりくに
5 区	かみしこう 上志幸・上井田・下井田
6 区	しこう 志幸・三万寺
7 区	しおまち 塩町



田幸地区町内会連合会内の「社会資源」(地域の宝) を紹介します

(令和 4 年 10 月 1 日現在)

01 田幸コミュニティセンター

1956(昭和31)年、田幸公民館として設立。現在では、田幸町内会連合会の事務局。

02 いきいきランド田幸

2017(平成29)年度開設。トレーニング室、サロン室、休憩室を備え、屋外にはグラウンドゴルフ場があります。運動や交流の場として、地域の健康寿命を延ばす拠点施設です。

03 悠久の森

三次市斎場として 2012(平成24)年開設。ロビーには、陶板で原寸大に再現した奥田元宋の絵画「寂静」(じゃくじょう)が展示してあります。

04 三次市立田幸保育所

1961(昭和36)年開設。23 人の児童。令和元年度から「未満児保育」が継続されています。

05 三次市立田幸小学校

1875(明治8)年開設。150 年余の歴史の中で、児童数 43 人。ポプラの木がシンボル。

06 三次市立塩町中学校

1971(昭和46)年に塩町校舎から、現在地へ移転。生徒数は三次市で 2 番目の 200 余人。

07 広島県立三次青陵高等学校

1920(大正9)年創立。100 年以上の歴史の中で 7 回の校名変更は珍しい。生徒数は、240 人。校訓は、「自主・創造・開拓」。

08 広島県立歴史民俗資料館

1976(昭和51)年開設。「風土記の丘」として親しまれている、県内唯一の施設です。

09 富士三次カントリークラブ

1977(昭和52)年開設。名手・中村寅吉設計のゴルフ場。プロ公式戦が何度も開催されたコースです。

10 ゆうしゃいん CCM

2020(令和2)年設立。障害者グループホーム相談支援事業所です。「みんなの地域生活支援拠点」を目指す施設です。

11 コージーガーデン

2012(平成24)年オープン。「ゆうしゃいん」のパン・レストランがある施設です。

12 ゆうしゃいん塩町

2010(平成22)年オープン。小規模多機能型居宅介護事業所。避難場所としても、大変役立っています。

13 JR 塩町駅

1930(昭和5)年に田幸駅として開業。福塩線と芸備線の拠点駅。交通の要所です。

田幸地区町内会連合会内の「区」と「常会」一覧

区	田幸地区の常会名	常会数	世帯数
1区	糸井甲、糸井乙、糸井丙、糸井丙2、糸井丁	5	98
2区	上谷、上定、本郷上・本郷中・本郷下、五反田前・五反田中・五反田後	8	74
3区	信貞上・信貞中・信貞下	3	39
4区	畑原、上ノ段、矢谷、寄国	4	46
5区	上志幸、上井田東、上井田西、下井田	4	53
6区	志幸上、志幸宮、志幸沖、三万寺	4	57
7区	塩町旧、塩町新	2	96
	合 計	(30)	(463)

※「世帯数」は、令和7年1月31日現在の広報配布世帯です。

※田幸地区の人口及び世帯数は、1955（昭和30）年のピーク時に3,000人、600世帯を超えていましたが、「平成」に入り2,000人、550戸余となり、令和7年当初では人口は1,200人台、世帯数も500戸を切ってしまいました。

加えて、近年では常会への未加入者が著しく増えている区もあり、新たな課題にもなっています。

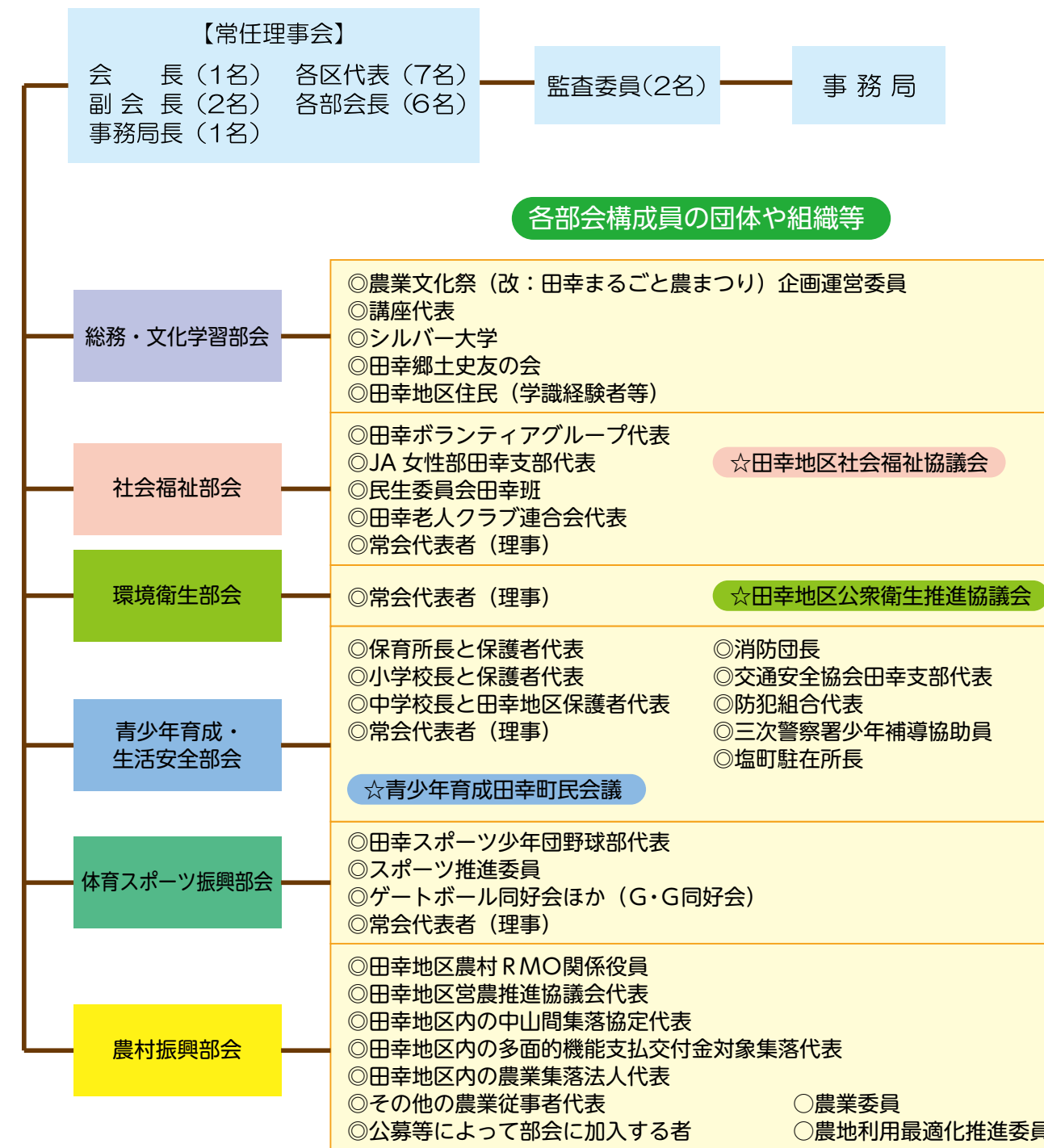
※田幸地区は営農地帯であり、「中山間協定」が13、「多面的協定」が16あります。令和5年度から「農村RMO事業」がスタート。「持続可能な農業」のため、事務の効率化と簡素化、人材の確保、活動の広範化等にメリットがある組織の「広域化」の方向についても徐々に協議が始まっています。

田幸地区町内会連合会組織図（令和6年度改正）

田幸地区町内会連合会

（2005年4月1日発足）

（田幸地区自主防災会事務局）
～安心・安全・笑顔の田幸～



田幸地区町内会連合会農村振興部会 組織図 [2024年4月現在]



☆農村振興部会：農村RMO事業を田幸地区町内会連合会活動に位置付け円滑な事業推進を可能とするとともに、持続可能な農村の発展と振興をはかるため、新たな専門部会として令和6年度に「農村振興部会」を新設したものです。

農村RMO事業は、令和8年3月末で終了しますが、当連合会としては事業終了後も「農とつながる持続可能な地域づくり」の視点で、可能な限り引き継いでいく方針です。

田幸を「多幸」にするための新しい挑戦!!

田幸 田幸を「多幸」にするための新しい挑戦!!

令和6年度の取り組み概要

実施主体	田幸地区町内会連合会
ねらい	●「まちづくりビジョン」を土台に田幸住民が幸せを実感できるまちづくりを進める。 ●「農」とつながる新しいしくみづくり ●若者を巻き込んだ関係人口を増やす取り組み。
内容	(1)農村RMO事業の推進 ①農地保全のとりくみ～持続可能な田幸の農業 ②田幸の豊富な地域資源の活用 ・果実、野菜の規格外品の活用と新たな商品開発やキッチンカーを使っでの販売と移動購買の検討。 ・塩町駅の活用) (2)イベント「田幸まるごと農まつり」の見直しと新企画 ①人口減少にともなうイベント準備、運営の効率化 ②時代にマッチした新企画の検討 (3)三次青陵高校、広島修道大学とのコラボ ①三次青陵高校地域貢献チームとの連携 ②広島修道大学「地域つながるプロジェクト」との連携

成果と課題

- 成果**
- 若手を交えた新しい実行委員会の誕生
人口減少と少子高齢化の中で、これまでのように「準備に3日かかる」イベントを見直し、省力化とアイデア出しで田幸の「身の丈に合った」イベント運営ができました。
また、若手が実行委員に入ること、斬新なアイデアやイベント全体に活気がみなぎる感がありました。新たな「農村RMO」の取組も公表することもできました。
- 課題**
- 「農産物品評会」は継続すべきか、否や
農協の審査員を招聘し、入賞者を決定する品評会をどうするのか。野菜販売の「軽トラ市」ではだめなのか。農を主体としたイベントだけに今後の大きな課題に。
 - 情報発信して田幸の関係人口を増やしたい
修道大学「田幸発見隊」の力を借りてSNSを通じての情報発信をして、益々「田幸ファン」を増やしていきたい。

特徴・工夫

- 5年・10年先を見据えた田幸の農業「地域計画」の完成。
- 有償ボランティア「田幸応援隊」(草刈り隊)の募集
- 田幸の桃、ブドウ、ホウレンソウを使ったスムージーを独自開発し、キッチンカーをレンタルして、各スポットで試飲会を実施。(塩町駅前、田幸小学校、青陵高校。田幸敬老会にも。)(青陵高校生もキッチンカーの飾りつけやラベルづくりに参加協力。)
- 「田幸まるごと農まつり」では、農産物品評会を休止して、米と野菜の即売会に切り替え、新企画として、「米品種当てクイズ」と「稲WCS重量当てクイズ」を実施した。
- 広島修道大学の学生が、田幸のぶどうを使ったスイーツ開発や田幸の観光マップ作りを企画した。

取り組みの様子



修道大学生と「ブレイズデザート」で打ち合わせ(左)、西田桃梨園で(右)



地域の交通について考えよう!



農まつりに協力参加の修大生



「農村RMOって何?」
「これらあ、みんな関係してるんよ。」



田幸小学校でとれたピオーネを敬老会でスムージーにしてふるまいました。



青陵高校生とスムージーをコラボ



田幸小学校にも行きました。かわいいお客様♡



青陵祭にも参加しました!



農村RMO事業の取組として地域資源を活かした「スムージー」作りに挑戦してみました。地域おこし協力隊として大阪から来られた間さんが大活躍でした! 田幸の大切な資源となってくれています!

塩町駅について青陵高校生にアンケートを実施。その結果12月16日から2月28日までイルミネーションを点灯することになりました。みんなの心が少しでも明るく暖かくなりますように!

※この地図は、2001(平成13)年に田幸郷土史研究会が作成した「田幸郷土史マップ」を再現したものです。本誌への掲載にあたっては、原則、新たに建設された施設を加え、撤去された施設等については抹消していますが、道路等の表示については、2001年現在のものです

田幸地区 マップ



糸井大塚古墳



みよし風土記の丘



J R 塩町駅

おわりに

「安全・安心・笑顔の田幸」を基本目標にかかげ、10年後の田幸を見すえて、五つの柱を設定し、個別の事業内容を織り込んでいきました。

また、本ビジョンの改訂版策定にあたっては、関係団体、関係機関の皆様方はもとより、策定委員を通じて田幸住民の皆様方からも、ご意見をいただきましたことに、深くお礼を申し上げます。

田幸地区のまちづくりの主役は、私たちです。まちづくりを進めていくこと、個々の事業内容が実現可能となるためには、創意工夫と連携・協力が重要であることは言うまでもありません。

そして、田幸地区に関わっていただいている関係団体の皆様のご支援、三次市行政との連携（協働）も大切になっています。

私たち、一人ひとりの努力で誰もが安心して暮らしやすい魅力的で持続可能なまちづくりをめざしていきましょう。



田幸コミュニティセンター



いきいきランド田幸

田幸まちづくりビジョン(改訂版)策定委員会

委員長	黒瀬 隆 則（田幸地区町内会連合会 会長）
副委員長	藤 原 直 子（田幸地区町内会連合会 副会長）
副委員長	免 田 拓 也（田幸地区町内会連合会 副会長）
委員	出 口 彰（田幸地区町内会連合会常任理事）
委員	原 田 豊 春（田幸地区町内会連合会常任理事）
委員	湯 浅 良 夫（田幸地区町内会連合会常任理事）
委員	亀 次 倭佐夫（田幸地区町内会連合会常任理事）
委員	原 田 耕 行（田幸地区町内会連合会常任理事）
委員	片 岡 哲 哉（田幸地区町内会連合会常任理事）
委員	山 本 広 吉（田幸地区町内会連合会常任理事）
委員	坂 本 高 宏（田幸地区町内会連合会常任理事）
委員	森 大 和（田幸地区町内会連合会常任理事）
委員	片 岡 昭 亜（田幸地区町内会連合会常任理事）
委員	和 田 博 雄（田幸地区町内会連合会常任理事）
委員	末 宗 大富譲（田幸地区町内会連合会常任理事）
委員	免 田 敏 彦（三次市集落支援員田幸地区担当）
編集委員	古 川 三 平（田幸地区町内会連合会事務局長）
編集委員	中 廣 章 子（田幸地区町内会連合会事務職員）

田幸まちづくりビジョン(増訂版)

～安全・安心・笑顔の田幸～



糸井町美波羅川の夜桜風景



旧甲名橋に泳ぐ鯉のぼり



富士三次カントリークラブ



三次青陵高等学校



塩町中学校



田幸小学校



田幸保育所



上井田のぶどう



上井田の梨



コージーガーデン

田幸地区町内会連合会

〒729-6211 三次市大田幸町 342 番地 5

TEL&FAX (0824) 66-1162

e-mail : takoh@m-city.jp